

国立大学法人
宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

ユー・ユー・ナウ
UU now



宇都宮大学 学長
Tomoyasu Ishida
石田 朋靖

学長インタビュー 地域の「知の拠点」を目指した改革

特集1 地域創生科学研究科

総合大学では例を見ない大学院の全学統合を実現

特集2 大学と地域が一体となり、次代を担う人材を育成

地域デザイン科学部 地域プロジェクト演習

CONTENTS

- 8 OB. OG. INTERVIEW
- 10 Welcome to 授業
- 11 Welcome to 研究室&ゼミ
- 12 研究keyword / 私の学生時代
- 14 宇大生は今!
- 15 UU News
- 16 INFORMATION

地域の「知の拠点」を目指した改革の実績を振り返りながら、現在進行中の工学部改組、大学院改革について、本学、石田朋靖学長に伺いました。

□ 石田朋靖学長 プロフィール

群馬県生まれ。
東京大学大学院農学系研究科博士課程修了（農学博士）
1983年 山形大学農学部助手
1991年 山形大学農学部助教授
1992年 宇都宮大学農学部助教授
2000年 宇都宮大学農学部教授
2005年 国立大学法人宇都宮大学評議員（兼務）
2008年 国立大学法人宇都宮大学農学部長（兼務）
2009年 国立大学法人宇都宮大学理事
2015年 国立大学法人宇都宮大学長

学長インタビュー

地域の「知の拠点」を目指した改革

学長就任（平成27年4月）から約3年が経過し、学長として第2期目に入りました。率直にいつ、今のお気持ち、感想はいかがでしょうか。

改めて、平成27年4月、学長に就任した当時の気持ちを振り返るため、就任のあいさつを見返してみました。そこでは、「第20代学長として宇都宮大学をさらに飛躍させることこそが、自らの使命」であるとし、「学生・教職員の信頼関係とチームワークを基盤として、学生の教育に対する熱意を何よりも大切に、社会に必要とされる国立大学であり続けることの緊張感をもって、学長に求められるリーダーシップを発揮したい所存です」と語っています。果たして私が、「学長に求められるリーダーシップ」を十分に発揮できたか甚だ疑問ではありますが、この3年間、教職員の教育研究にかける情熱を礎とした日々の努力により、数々の先進的な取り組みが着実に具現化し、本学の存在感が多方面において高まってきています。構成員の皆さんと共に喜び合いたいと思います。また、「地域に開かれた大学」、地域の皆様に親しまれる大学にするため、敷居の低い運営を心がけ、私自身も積極的に地域の中に飛び込んでいきました。地域の産官学や市民の方々から、本当に多くのご支援や励ましをいただき、宇大への理解もさらに進

んできたと感じています。本当に感謝しておりますし、是非、もっと好きになり、少しでも愛していただけたら嬉しいです（笑）。

学長のおっしゃる通り、第1期の在任期間、様々な改革、施策が進められ、宇都宮大学にも大きな変化がありました。

就任第1期目の本学のビジョンとして、私は「行動する知性と良識を備えた、地域における知の拠点の構築」を掲げました。この、地域にお返しする「知」の部分ですが、現実社会や生活とかけ離れたものではない学問、正しく豊かな社会を築くための「実学」としての「知」、行動を伴った「知」は本学の伝統であり、その強みを



キャンパスを歩く学生たちにいつも気軽に声をかける

伸ばすことができたのではと思っています。

昨今の社会情勢を見るに、単独の学問分野の専門性はもちろん重要ですが、それだけでは現実社会の課題に対応できず、他の学問分野との協働が、全ての領域において必須となってきました。本学では現実の課題に対応できる学問体系を強く意識し、「分野融合」や「文理融合」といった方向に大きく舵を切っています。

平成28年4月にスタートした「地域デザイン科学部」は、「まちづくり」の現場で実際に行われている理系の専門的知識・技術を持



学生たちが多く集まるラーニング・コモンズのテラスで意見交換

った人材と社会科学の専門的知識を有する人材の「協働」をカリキュラムの核としています。そして、平成31年4月に開設される新大学院「地域創生科学研究科」では、全学規模の大学院統合というさら

に大胆な試みを進めます。本学のすべての学問が、栃木を始めとするさまざまな地域を活性化し、幅広い意味で豊かな社会にするということを共通の目的として、多様な分野の専門知の融合を進め、新たな価値創造によるイノベーションを目指す教育研究システムを構築していきます。

同じく平成31年4月に実施する工学部の学科統合(※)も同様です。現代の「ものづくり」の現場においても、各分野の高い専門性を有しつつ、他の工学分野や文系の諸分野にいたるまでの幅広い分野の専門家と協働できる能力が求められています。今回の学科統合では各分野の専門知識はもとより、異分野の専門家との協働能力を育むカリキュラム改革を実施します。

そして、2019(平成31)年度には、本学は創立70周年を迎えます。

宇都宮大学も新制大学として発足以来、常に地域とともにあります。



から70年の歴史を数えてきました。冒頭でもお話ししましたが、学長になってから、常に心配りをしてきたことのひとつとして、宇都宮大学は「地域に開かれた大学」でなければならぬ、ということがあります。今回70周年を迎えるにあたり、この「地域に開かれた大学」の象徴として、現在未整備の状態である大谷石造りの旧図書館書庫を整備し、地域の方々、同窓生の方々、学生、教職員が気楽につどい、会話を楽しめる大学らしいスポットを作りたいと思っています。この旧図書館書庫の周囲には、本学の歴史的シンボルであり、すでに地域の方々に親しまれている峰ヶ丘講堂やフランス式庭園があります。これらを中心とした一帯を「ヒストリカルゾーン」として整備し、様々な方々に本学を一層身近に感じていただければいいですね。

それでは最後に、70周年を迎え、さらに飛躍しようとする宇都宮大学、その飛躍を牽引するリーダー

としての思いや、意気込みをお聞かせいただければと思います。

私が何よりも思いとしてあるのは、地域の皆様から大切にされ、多くの優秀な卒業生を輩出してきたこの宇都宮大学を、20年、30年先も生き残っていける大学にしたいということです。宇都宮大学は本当に実力がある大学ですから、その強みや特徴を発揮できるようにしていけば、自ずと社会からの評価は高まり、存在感は上がっていきます。学長就任第1期目には、これまでお話ししたような先進的な取り組み、改革を、教職員を始めとしたすべての構成員の努力により実現できました。これは今後とも本学が生き残っていくための着実な基礎であると確信しています。これらの取り組み、改革を、全学一体となって実質化していく、確実なものにしていくことが、学長としての私の今の使命だと思っています。



平成28年4月にスタートした「地域デザイン科学部」

総合大学では例を見ない大学院の全学統合を実現 地域創生科学研究科

2019年4月に開設予定の新大学院「地域創生科学研究科」について、本学副学長の川田重夫教授から話を伺いました。

また、本研究科で最先端レベルの研究を展開している光工学プログラムの山本裕紹准教授、分子農学プログラムの煉谷裕太朗助教と、研究室の学生たちと話を伺いました。

地域創生科学研究科は新しい課題に対応するため、専門分野だけではなく多面的な視野を持った幅広い人材を育成することを使命としています。「社会デザイン」と「イノベーション」を両輪に、専門領域の壁を低くして文理融合、分野融合による学際領域の教育研究を発展させます。異分野の学生、教員がお互いに刺激し合う中で成長していくことを期待しています。特徴的なものとして学際的思考



副学長 川田 重夫 教授

力と実践力を養成するリテラシー科目を4科目（必修）用意しています。特にユニークなのが合宿形式の『現代社会を見通す…生命と感性の科学』です。文系や理系の学生が一緒に、21世紀の人間社会を考える基盤として生命と感性の素養を深めることによって、根源的視野と俯瞰的視野の涵養を図ります。専門が異なる学生間の意見交換やグループワークを通して分野横断的な思考力やコミュニケーション能力の伸張を図ります。

『地域創生のための社会デザイン&イノベーション』は、一つのテーマに対して社会デザインとイノベーション両方の観点から講義し、それを受けて学生が分野横断でグループ討論を行います。取り上げる6つのテーマ「社会福祉」「人間」「防災」「環境」「ものづくり」「農林業」は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を念頭に設定されています。この科目と『グローバルな視座を養う』の授業は双方向遠隔講義システムにより、峰、陽東両キャンパスで展開され、全学生が一緒に受講します。もう一つは修士2年で受講する『アカデミックコミュニケーション』という科目です。各学位プログラムが主宰する「オーブンゼミ」

地域創生科学研究科(修士課程)

入学定員335名

社会デザイン科学専攻

入学定員77名

(文理融合・分野融合による学際領域)

地域・国・世界の発展
・創生を支える
教育研究の推進

- ・コミュニティデザイン学プログラム
- ・農業・農村経済学プログラム
- ・建築学プログラム
- ・土木工学プログラム
- ・農業土木学プログラム
- ・グローバル・エリアスタディーズプログラム
- ・多文化共生学プログラム
- ・地域人間発達支援学プログラム

工農総合科学専攻

入学定員258名

(工農融合による学際領域)

地域イノベーションの
創造を支える
教育研究の推進

- ・光工学プログラム
- ・分子農学プログラム
- ・物質環境化学プログラム
- ・農芸化学プログラム
- ・機械知能工学プログラム
- ・情報電気電子システム工学プログラム
- ・農業生産環境保全学プログラム
- ・森林生産保全学プログラム

地域創生 リテラシー

高度な科学リテラシー
として、学際的思考力
と実践力を養成

により行われます。学生が自らの研究を発表する場には異分野の学生や教員も集まり、ディスカッションします。異分野の人にも分かるようにプレゼンテーションをしなければなりません。様々な指摘を受けることもあるかもしれませんが、そのような場によって学生には成長してほしいと思います。境界・学際領域の教育研究を展開させるため社会デザイン科学専

攻、工農総合科学専攻それぞれに「研究コーディネーター」を配置し、自らの研究に対してアドバイスを受けた場合、適任の先生につなぎ研究アドバイザーになっていただきます。複数の教員に指導を受け研究の幅を広げるという体制も用意しています。社会人や留学生に対応した仕組みも作りいろいろな人に幅広く学院ができたと思います。



LEDライトの光を「再帰反射シート」と呼ばれるシートを使って空中に結像させることで立体的に見える（写真左が山本准教授）

光工学 プログラム

山本 裕紹 准教授

栃木県は光関係の企業が多数立地し、光学製品の工業出荷額が全国トップです。こうした状況を背景に、宇都宮大学に光学技術を体系的に研究するオプティクス教育研究センターが設立され、光工学の世界的拠点へと発展しています。

光工学プログラムには、「世界でここしかない研究ができる」という強み、魅力があります。例えば私の研究室ではSF映画に出てくるような「空中ディスプレイ」の研究をしています。何もなければ空中に映像が浮かびます。この技術を使って今までディスプレイが置けなかったような空間にディスプレイを置くことができます。例えば、トンネルの中に空気の流れの妨げにならないような看板をつくれるようになります。

この業界、2040年には3兆5千億円規模の大きな市場になることが予想されています。世界でトップを走る空中ディスプレイの研究が、この研究室で行われています。実用化を目指すだけではなく、新しいディスプレイ技術の生物学への応用についても生物学者との共同研究が進められています。大学院の改組によって工農の連携と融合がさらに進むと期待されています。

◆ 学生の声

「学部時代、農学はまったく視野になかったが、光工学を専門的に学ぶようになって光と生物の関わりを知った。そこがおもしろくて、バイオに興味を持つ学生は多いと思う。工農融合で興味や知識の幅が広がるという期待がある」（大学院先端光工学専攻修士2年 山本研究室）



水中に映像をつくり、その映像に対してメダカがどのような行動をするのか観察し、メダカの生態を解明する試みが行われています

分子農学 プログラム

煉谷 裕太郎 助教

これまで農学と分子生物学との関わりというものは見えづらいところがありましたが、新しい大学院では農学と分子生物学をしっかりと結びつけて研究していくプログラムを立ち上げています。

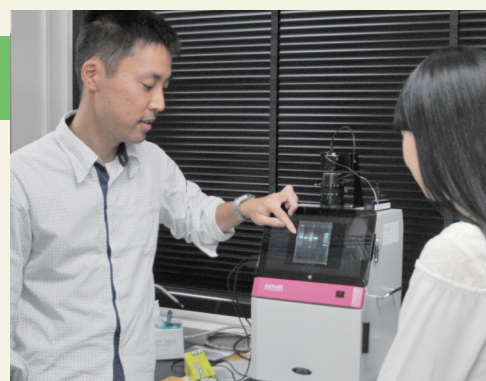
動物、植物、微生物領域分け隔てなく研究者が集まっていて、分子農学というプログラムを横断的に取り組み、最先端の研究を現場に活かすことを目標としています。分野の違う視点から見ていくことで新たな発想が生まれ、さらに発展的な研究ができるのではないかと考えています。

工農融合という観点では、動物領域ではメダカやミジンコの研究で、植物領域では葉緑体の研究をしている先生が既に光工学の先生と一緒に研究しています。また、新しい研究を創造することを目的に「オプトバイオシンポジウム」が開催され、新しい共同研究の可能性を探る試みも行われています。

新たなプログラムではいろいろな分野の教員が様々な研究をしていますので、自分の興味ある研究に出会えるのではないのでしょうか。直接携わらなくても、いろいろな研究を容易に身近に見ることができますので、特に科学的好奇心の強い人には魅力があると思います。

◆ 学生の声

「いま学んでいるのは植物ウイルスですが、遺伝子やDNAを学ぶことが食糧問題など農業に関わる問題解決につながり、社会に貢献できると思うと嬉しく感じる。大学院で専門性を深めたい」（農学部4年 植物病理学研究室）。「研究対象の植物ウイルスは農薬が効かず感染したら対処法がなかったが、遺伝子を扱う分子農学的なアプローチだと、新たな治療法を開発できたりする。いままでのやり方では分らなかったことが、分かるようになるところがおもしろい」（大学院農学研究科修士1年 植物病理学研究室）



ウイルスの検出実験の結果について学生とディスカッション



実験室で研究室員との集合写真（写真後列右が煉谷助教）

大学と地域が一体となり、次代を担う人材を育成

地域デザイン科学部 地域プロジェクト演習



地域デザイン科学部
学部長 塚本 純 教授

ちが地域の財産をつくる、というくらいの気概を持っていただければうれしい。学生らしく失敗を恐れず大胆に、地域に飛び込んでいってほしいと思います。

「地域プロジェクト演習」は、大学と地域が一体となりこれからの時代を担う人材を育成する新たな試みです。

学部生全員が「地域対応力」を養成する学部共通科目で、1年次から3年次にかけて「地域と向き合う力」、「実態を調査し分析する力」、「課題を解決へ導く力」を身に付けます。その総仕上げとなるのが3年次の「地域プロジェクト演習」です。3学科混成グループで担当地域に出かけ、調査・分析を実施。住民や関係者たちとの合意形成を学ぶとともに、学生が相互に協力して、課題の解決策を導き出しながら、地域の課題に取り組み、協力力などを培う新たな取り組みです。地域の方々の熱意、このプロジェクトへの期待も感じています。

初めての取り組みで、学生も教員も、そしてパートナーになっていただいた自治体、NPO法人の方々も一緒にチャレンジしているこのプログラムは、今後、宇都宮大学、栃木県内自治体の財産になるのではという思いがあります。今、その財産を積み上げていく段階だと考えています。

大学と地域が協働し、試行錯誤を重ねながら常に変化していくプログラムであり、その中から新たな型といえますが、地域課題解決の一つのパターンができてくるのかもしれない。その成果の蓄積が財産となり、地域で活用されていく。その活動に学生も参加してもらいたいのです。自分たち

陽東地区自治会役員は「若い人の率直な意見は何よりも新鮮。これからの地域づくりに若い人の力、声を反映させていくことが大切」と話します。また宇都宮市の担当者は「地域の課題を地域だけで解決するのは少子高齢化の中で難しくなっている。そういう中で大学と地域が結びつく、いい機会だなと思っていた。学生さんがすべて解決してくれるわけではないが、こういう交流が未来につながるいいきっかけになると考えている」と話します。



■テーマ内容

陽東地区には多くの宇大生が居住しているため、地域づくりに参加してほしい。どのような参加の方法があるのかを一緒に考えて、実行できるようにしたい。

パートナー「陽東地区まちづくり協議会」

調査設計を行う「First Cycle」の学生は自治会会議への参加やアンケート調査で住民の要望を調査。「ミニ出しと自転車のマナー」について改善策を検討していくことに。「普段、自治会の存在を意識することはなかったが、自治会の会議に参加し、自分たちの地域を良くするため本音で話し合う人たちがいることを実感できた」という。



陽東地域コミュニティ 活性化プロジェクト

■2班メンバー

コミュニケーションデザイン学科3年
平山安奈、吉川紗也子
建築都市デザイン学科3年
喜多ひかり、嶋田 樹
社会基盤デザイン学科3年
長田一輝、馬場翔太郎

■平成30年度地域プロジェクト・パートナーおよびテーマ一覧

	自治体	担当部局	パートナー（団体名）	テーマ
1	栃木県	総合政策部 総合政策課	環境森林部 森林整備課技術調整担当山チーム	山地災害に対する防災意識向上に向けて
2	宇都宮市	市民まちづくり部 みんなでまちづくり課	陽東地区まちづくり協議会	陽東地域コミュニティ活性化プロジェクト
3		環境部 環境政策課	宇都宮市もったいない運動市民会議	「もったいない運動」の推進について
4		都市整備部 都市計画課	都市整備部 都市計画課	人口減少社会を見据えた農村地域などのコミュニティ維持形成
5		NPO法人 宇都宮まちづくり推進機構	NPO法人 宇都宮まちづくり推進機構	まちなかの遊び方・楽しみ方を考える
6	足利市	政策推進部 映像のまち推進課	あしかが映像まつり実行委員会	あしかが映像まつり
7		健康福祉部 健康増進課	足利歩き愛です（あるさめです）実行委員会	足利歩き愛ですの開催地域の選定
8	栃木市	都市整備部 住宅課	都市整備部 住宅課	空き家によるエリアリノベーション
9		商工振興部 商工振興課（商業金融係）	商工振興課（商業金融係）	「商店会の良さ再発見」と魅力づくり
10		商工振興部 商工振興課（工業労働係）	商工振興課（工業労働係）	匠の技（伝統工芸）のこれからを探る
11		保健福祉部 地域包括ケア推進課	保健福祉部 地域包括ケア推進課	住み慣れた地域で安心して暮らしていける支え合いのまちづくり
12		選挙管理委員会事務局	栃木市明るい選挙推進協議会	選挙へ行こうよ！とちぎ市
13		総合政策部 遊水地課	総合政策部 遊水地課	「ヨシ」のあるまちづくり



今市エリアにおける「まちの縁側」の推進

■16班メンバー

コミュニケーションデザイン学科3年

半澤佑紀、原田真悠

建築都市デザイン学科3年

中山紘希、川合拓実

社会基盤デザイン学科3年

梶合拓未

■テーマ内容

今市エリアで、新たな人のつながりを再構築する日常的な居場所である「まちの縁側」づくりを展開している。誰もが日常的な居場所として交流したり、地域のつながりを構築する担い手であることを理解する場にするための方策を考えたい。

パートナー「日光市社会福祉協議会」

特に独居高齢者に着目し、社会的孤立者が外に出て地域の人たちとコミュニケーションを図ることができるようまちの縁側を提案することが最終目標。

「社会人に対する言葉遣いや、聞かれたくないこともあると思うので、いろいろ気にしながら話すよう心がけた」アンケート調査は初めての経験で、設問を考えるのが難しかった。何を聞きたいのか、回答をどう分析し、どこへつなげるか、先を見通し、道筋を立てていかないとうまくいかない。2年次に学んだ社会調査法が役立つかな」と学生たち。



日光市社会福祉協議会今市支所の担当者は「地域を耕すとか、地域をおこすというのは、若い方の特権だと思う。このプロジェクトは地域をおこす起爆剤として、地域が動いていくひとつのきっかけとして大きな取り組みではないかと期待している」と話します。

遊休不動産とアーバンデザイン

■25班メンバー

コミュニケーションデザイン学科3年

高橋里佳、平山捺樹

建築都市デザイン学科3年

郡司理菜、速水秀太

社会基盤デザイン学科3年

篠崎広太

■テーマ内容

人口減少の中、烏山駅前広がる中心市街地の活性化が喫緊の課題である。近隣に存在する空き家や未活用の公共用地などの遊休不動産の活用も含め、市街地振興の方策を提案してほしい。

パートナー「NPO法人クロスアクション」

現地でフィールドワークとヒアリングを実施。「普段、意識して地域を見るといことはないので、こういう機会があって地域をよく知ることができたし、新たな発見もすごく多い」「ヒアリングやフィールドワークでまちを知る手法を学べる。自分の足で歩いて学べているのでいい経験をしていると思う」「過疎の問題はニュースで知るとくらいだ。実際に歩くとなぜ過疎化が起きているのか、また少子高齢化以外の問題も見えたりする。街の活性化の可能性はあると思う」「私たちが引き続き関わっていくのは難しいので地元の人や後輩につないでいければ」と学生たち。



NPO法人クロスアクションの担当者は「提案された活性化案は絶対に目に見える形にすると学生に伝えた。私たちの考えも加味して行政に提案する。それを行政が事業化するというサイクルが生まれてほしい。これをきっかけに宇大と那須烏山市のつながりができればという思いもある」と話します。

	自治体	担当部局	パートナー（団体名）	テーマ
14	鹿沼市	市民部 地域活動支援課	鹿沼市自治会連合会	自治会加入率向上に向けた調査研究
15		教育委員会事務局 文化課	鹿沼市文化協会	文化芸術団体の後継者育成について
16		健康福祉部 社会福祉課	日光市社会福祉協議会	今市エリア（旧今市市）における「まちの縁側」の推進
17	日光市	地域振興部 地域振興課	（地域振興課）日光市地域おこし協力隊：栗山地域	日光市栗山地域鬼怒川筋における地域ブランド形成
18		地域振興部 地域振興課	（地域振興課）日光市地域おこし協力隊：三依地区	三依地域全体を巻き込んだのサロン
19	小山市	産業観光部 工業振興課	工業振興課（結城袖振興係）	見つけよう。「本場結城絨」の魅力
20		総合政策部 総合政策課	総合政策課（人と企業を呼び込む政策調整係）	渡良瀬遊水地を活用した観光地化事業
21	矢板市	総合政策部 総合政策課	総合政策課（地域おこし協力隊）	AcIoT（アシオト）ソリューションアクティビティ
22		市民生活部 暮らし安全環境課	暮らし安全環境課（環境文化都市やいた創造会議）	Save 1.5℃ プロジェクト
23	さくら市	総合政策部 総合政策課	総合政策部 総合政策課	市民協働を推進するための課題と対策
24		総合政策部 総合政策課	総合政策部 総合政策課	効果的なシティプロモーションの手法
25	那須烏山市	まちづくり課	NPO法人 クロスアクション	遊休不動産とアーバンデザイン
26		まちづくり課	僑スキット きずなサービスセンター	アクティビシアの健康づくり活動継続と地域活性化について
27		まちづくり課	キャンパス烏山	「求める手 差し出す手」学生の力を地域へ
28	高根沢町	企画課	NPO法人 ふるさと未来Sou	子どもの成長に合わせた環境学習・体験プログラムの開発

H.I.S.

Highest International Standards

株式会社エイチ・アイ・エス
東北営業販売グループ
秋田アトリオン営業所
コンサルタント

Seika Usui

白井 聖香

PROFILE

岩手県出身。2012年、宇都宮大学国際学部国際文化学科入学。在学中は国際学部ピアサポート団体「りんく」等で活躍する。卒業論文は外国人児童生徒のための日本語教育をテーマにした。2016年、大学を卒業。現在、株式会社エイチ・アイ・エス秋田アトリオン営業所勤務。



笑顔でがんばっています！
ー旅行業界の最前線よりー



左から所長の黒川功太郎さん、白井さん、先輩の小泉智佐子さん

本学国際学部国際文化学科卒業の白井聖香さん（2016年卒業）が勤務する株式会社エイチ・アイ・エス秋田アトリオン営業所を後輩の国際学部4年生3名が訪問し、いろいろとお話を伺いました。就職2年目の先輩白井さんとは年代が近いこともあり、学部の先生や授業の話で大盛り上がり！終始笑顔の絶えない楽しいインタビューになりました。（写真左から国際文化学科4年 大川 裕、白井聖香さん、国際文化学科4年 上遠野 亜衣、国際社会学科4年 小畑 晋吾／秋田市アトリオンビルの音楽時計の前で/2018.9.14取材）

日本の学校に通っている外国人児童生徒向けの、日本語教材の開発について研究を進めました。実際に日本語教育に携わっている先生方にアンケートをとったり、先生方や受講している皆さんの意見を取り入れた日本語教材を実際に作成し、それに対してフィードバックをいただいたりして、少しでも学びやすい教材ができないか、試行錯誤の連続でした。これらの成果を卒論としてまとめました。卒論を提出した時は非常に充実感がありました。また鎌田先生には丁寧に指導していただき本当に感謝しています。

■宇大を選んだきっかけはなんですか？また大学での学びはどうでしたか？
幼稚園のころから英語を勉強していたので漠然と外国に興味を持っていましたが、国立大学で国際学部があり、自分の志向にあった勉強もできるということで進路を宇都宮大学に決めました。
宇都宮大学の国際学部は多様な分野の学習ができる学部です。授業を受けて自分の視野も大きく広がったと思います。入学前は宗教や思想的な部分に関心があったのですが、もともと語学が好きだったこともあり、言語学への関心が高まってきました。そして鎌田先生（鎌田美千子国際学部准教授）の授業を受講したことがきっかけで、日本語教育を中心のテーマとしていくことにしました。

バスケットボールサークル「KUNOICHI」で活動中の臼井さん（最前列右から4人目）



謝しています。

■ 旅行業界に就職して、お仕事の方はいかがですか？

もともと海外旅行は大好きで、海外に携わる仕事をしたいという思いがあり、いろいろ悩みましたがエイチ・アイ・エスにお世話になることにしました。今ですか？はい、すつごく楽しいですよ！（笑）

当然楽しいだけでなく、仕事の上でも充実しています。

今の職種は、来社したお客様からの旅行に関する相談を受けたり、具体的なプランニングを提案したりするコンサルタントという仕事です。元々入社当時は旅行商品の企画に携わりたいという気持ちもありましたが、今はこの業務の面白さに目覚めたので、しばらくはコンサルタントを極めたいなと思っています。昨年、社内でのプロックの新人賞、あと一歩だったんですよ！

カウンターでお客様に接する際には、旅行業務に関する知識や国際情勢など、幅広い知識が求めら

れます。入社後の研修やOJT（社員教育）などで積極的に知識、ノウハウを学ぶ毎日です。また、国際学部で学んだグローバルマインド、国際情勢に関する知識などの幅広い学びはまさにコンサルタントの現場で活かされていると感じています。私が提案した内容がお客様に喜んでいただいた時、特に充実感を感じますね。

同僚の先輩方は知識やスキルも豊富で、何よりお客様にリピーターの方も多く、とても尊敬しています。営業所内の雰囲気も良く、コミュニケーションも豊富でやさしく指導していただいております、本当に楽しいです（笑）。

■ 現役の宇大生へメッセージをお願いします。

学生時代は、色々な体験をしてほしいですね。特に旅行がおすすめです。日常では知り合えない人と会って新しい考え方に触れたりして、自分に刺激を与えてほしいですね。特に海外は、刺激的な体験をしたり、考え方に触れることができます。そうして広げた自分の幅は、社会人になってきつと役立つはずですよ。

国際学部では、いろんなことが学べて、私も当初の自分の関心とは別の可能性を見つけ

ることができました。先生も、学生もバラエティあふれる個性的な人がたくさんいます。学部での4年間、大切にしてくださいね。勉強も？（笑）がんばりましょう！

■ 上司の黒川功太郎所長に臼井さんの仕事ぶりを伺いました。

臼井さんはまだ入社2年目ですが、今まで見た新入社員の中で一番優秀です！新入社員として入社すると営業職としての目標が課されるのですが、8カ月連続目標を達成していて素晴らしい限りです。お客様の旅行のコンサルティングには旅行業界に関する幅広い知識が必要ですが、彼女は自分でもよく勉強していて、挙式のコーディネート等に関する社内資格も一年目で取得しました。物怖じしない性格もこの仕事にあっていると思います。今後女性リーダーとしての活躍を期待できる人材であり、非常に期待しています。



取材を終えて

国際社会学科4年
小畑 晋吾

初めてOB・OGインタビューをやらせて頂きました。自分と同じ場所学んだ先輩が実際に社会で働く姿を目の当たりにし、自分の将来像を描くことができました。臼井さんが「今の仕事が好き」とおっしゃっていたことは特に印象的で、僕自身も将来楽しみながら仕事をしたいと改めて思いました。



国際文化学科4年 大川 裕

「知らない場所へ行き、知らない人や考え方に触れることで、新しい刺激を自分に与える」。臼井さんがおっしゃっていたこの言葉が印象的でした。学生時代、様々な場所へ足を運んだ臼井さんだからこそその言葉だなぁと思いました。何よりも仕事を楽しんでいる姿が素敵で、そんな臼井さんに出会えたことが私にとつての新しい刺激でした。

国際文化学科4年 上遠野 亜衣

臼井さんが「自分の好きを活かせる仕事」であるとおっしゃっていたことが、とても印象に残っています。キラキラした笑顔で働く先輩の姿をみたり、実際にお話を伺ったりしたことで、「働く」とは何か改めて考えることができた貴重な機会でした。

Welcome to 授業

● 授業概要

農業経済学科において会計学はトレーニング科目に位置付けられています。それには経済学や経営学などの基礎理論と実際に仕事が行われる場をつなぐという意味合いがあります。ビジネス数字の扱い方を学び、実際の仕事に活用できるジェネラルスキルを修得することが目的です。会計学を履修する学生には日商簿記検定の受検を勧めており、その先には税理士、公認会計士など高度専門職への道も開かれています。

● 教員から



さいとう きよし
斎藤 潔 教授

専門分野：アグリビジネス論
授業科目：学部／農業経営学
大学院／アグリビジネス論

● この授業では、会計学をベースに主な内容として簿記論を学びます。会計学は社会に出てからどのような仕事に就いても基本になる知識であり、日商簿記の3級を取得することは就職活動でも有利になります。

農業経済学科では、理系の視点と文系の視点をあわせて学びますが、これを総合農学といいます。経済学や経営学、社会学などは世の中に対する基礎的な考え方として重要です。技術の基礎とそれを活かす視点の両方が必要です。中でも会計学には農業会計という分野があります。例えば育った作物の価値はどの

ようにして計るのか、牛が仔牛を生んだらその価値はどうなるのかなど、応用としてはそのようなことにもつながります。農業の道に進む生徒だけではなく、金融関係や企業に就職する生徒も多いです。なのでまずは基本的な会計に関する知識を身に付ける必要があります。会計学は世界中の経済系の大学で教えられているので、基本的なスタイルが確立されています。しかしお金の話になると数字が大きくなり、独学だけではイメージしづらいため、身近にある様々な実例を取り上げることでイメージしやすい授業を心掛けています。

● 学生から



農業経済学科2年 杉本 耀介

● 実際に会計学を学んでわかるのは、用語の意味をきちんと理解する必要があるということです。斎藤先生の授業では、メインの話から脱線してあえて別の話をすることがあります。しかしそれこそが様々な知識を学べ、なおかつ先生の授業がわかりやすい理由です。先生の話から興味を持ち自分で調べることが重要です。



同 森田 千智

● 就職のためにも簿記の資格は役立つと考え、この授業を受けて簿記3級を取得するという目標を立てました。私が農業経済学科に入ったのは、経済系の学問を学びたかったということがあります。斎藤先生は実例を挙げて授業をしてくれるので、ただ独学で学ぶよりも社会に出てから役に立つ授業だと思います。



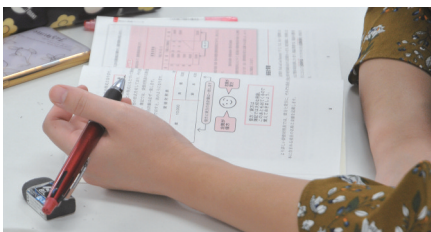
同 グエン ティー トウイ

● ベトナムから日本に来て3年になります。ベトナムの高校を卒業し、宇都宮大学に入学しました。ベトナムの実家が農家なので、きちんと農業の知識を身に付けるために農業経済学科を選びました。会計学は日本の企業に勤めたときにも役立ち、農業に携わるときのためにもなる知識を学べる学問だと思います。

● 会計学は数字を観察して処理するので、数学的だと思います。実家が農家なので、学んだ知識をそちらにも役立てたいです。日本の農業の特色は経営者と労働者が一体型だということです。農業で働く人が経営にも目を向ける必要があります。自分がお金をどのように得てどのように使うのかを把握することが農業においても必要です。



同 竹野井 遼



● 研究室概要

算数・数学の教材や指導法の開発に取り組んでいます。研究テーマは、学生が学校現場に出たときに実践したり、活用したりできるように、現在の算数・数学教育における課題を文献などから調べて各自で決めます。テーマも多彩で、数学的モデリング（現実の世界と数学の世界との行き来）、統計教育、幼小連携、算数と理科との連携、教具の活用などがあります。

教育学部 算数・数学教育 川上 貴 ゼミ

● 教員から



川上 貴 講師
専門分野：教育学部
（算数・数学教育）
授業科目：学部／算数科教育法、
数学科教育法Ⅱ、統計学
大学院／算数科教材開発論、
数学科授業研究、数学教育特論

● このゼミは算数・数学教育のゼミです。具体的には小・中学校の算数や数学の教材を開発したり、授業のプランを検討します。これから教師になる学生たちが、今の算数や数学で子どもたちがどのようなことにつまずいているのか、些細な問題でも改善できるような教材や授業を開発していくというテーマで、各自が研究をしています。様々な先行研究や授業での工夫の仕方などもゼミでは教えています。私自身の小学校教員としての経験と研究者としての経験を活かして、大学を出た時に知識を現場に活用できる教員になってもらいたいと考えて指導しています。

数学には様々な学問を支えてくれる普遍性があります。身の回りと無関係だと思っている物事にも実は数学が使われています。その実用性を知ることによって初めて数学のおもしろさに気付くことができます。普遍性や実用性などの新たな側面を見ることで、算数や数学に対してよりポジティブになれるような研究室です。

● 学生から



学校教育教員養成課程教科
教育コース数学教育専攻4年
田村 美希

● 算数と理科を連携させた授業の提案について研究しています。理科系の授業は自然現象を扱っていますが、それを処理していくには算数や数学の知識が必要です。同じものを対象としながらも、理科では物体を観察し、その上で数学を使うことで自然現象の処理ができます。数や量の変化、図形など私たちが普段目に見えているものでも、日常生活で物事を数学的に捉えることはあまりありません。それらを自分で気付けるように「自ら数学を見つけていく」ことが教育において重要になると考えています。

● 幼児教育と小学校教育との接続について研究しています。特に算数教育を幼児期にどのようにすればよいのかという考察とその示唆をテーマとしています。この研究では実態の把握が重要ですから、実際に幼稚園や保育園の現場に行きインタビューを実施しました。そのインタビューを通して、幼児教育と小学校教育の接続は先生方が意識して教育しなければならないことだとわかりました。子どもたちの反応を見ることでどのような幼児教育が小学校教育につながるのかを考察することができました。



同 岩野 明日香



同 片貝 航大

● 私の研究テーマは、児童が算数の授業での「問い」を見出すために、ブロックやおはじきなどの数学的教具を活用することをテーマとしています。算数の授業では、まず問題があり、活動して、解決するという流れがあります。ここで定義する「問い」とは、例えば小数を学んだけれど、それを分数に変えるにはどうすればよいのかなど、児童が思いつく素朴な疑問です。それらの「問い」を見出すためにブロックやおはじきなど、子どもたちが自分で触りながら操作して学べる教具を使います。子どもたちが数学を理解しやすい教具の活用が重要です。



研究 Keyword



PROFILE

2000年、東京工業大学大学院
博士後期課程情報理工学研究科
情報環境学専攻修了。宇都宮大
学工学部助手、同准教授を経て、
2016年より現職。博士（工学）。
バイオメカニクス、バイオエン
지니어リングについての研究に
取り組む。

工学部 機械システム工学科 教授 嶋脇 聡

ヒトを計測する

ー機械工学からのアプローチー

工学部 機械システム工学科 教授 嶋脇 聡

私は主に3つの柱（研究テーマ）
について研究を実施しています。
それらは、①生体計測、②福祉工
学、③数値シミュレーションです。
各柱は独立しているのではなく、
相互に連携しています。個々につ
いて具体例を示しながら説明しま
す。

① 生体計測ー血管の状態を計測 する

この柱は大きく2つに分けられ
ます。一つは生体内非侵襲計測で、
もう一つは生体運動計測です。前
者はヒト内部の情報を非侵襲（体
を傷つけない）に計測することを
意味します。

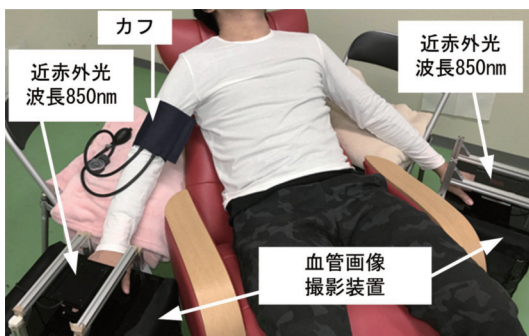
生体内非侵襲計測では、主とし
て近赤外光を用いた血管可視化技
術を用いた計測になります。近赤
外光とは、波長が700～1200
nmの光で、可視光よりも僅かに
波長が長いものです。この光の特
徴は生体透過性が良いということ
です。しかしながら、血液の中のヘ
モグロビンにはその吸収性が高い
という特徴もあります。私はこの
血管可視化技術を用いて、血管硬
さ、血中コレステロール濃度、血
管内皮細胞機能を計測する研究を

行っています。この中で、血管内
皮細胞機能の計測について紹介し
ます。

血管内皮細胞の主要な機能は血
管運動を引き起こす物質を分泌す
ることです。この機能が低下する
と、動脈硬化症を発症するリスク
が高いことが知られています。一
時的に血流が増加することによつ
て生じる血流依存性血管拡張反応
という生理現象があります。そこ
で、私は血流依存性血管拡張反応
を近赤外光血管可視化技術で計測
できるのではないかと考えて、そ
の計測を行ってみました。図1に
示すように、両手の中指に近赤外
光を照射させ、その透過光をカメ
ラで撮影しました。

右上腕をカフで5分
間圧迫させて、その
前後における血管画
像を調査しました。
その結果、カフ開放
後に明らかに画像が
暗くなりました。こ
の現象を血管画像の
輝度値で示すこと
によって、定量的に評
価することができま
した。

図1



② 福祉工学ー電動義手を開発 する

この柱に関する最初の研究は、
平成17～18年度に実施したとちぎ
コンソーシアム事業の採択課題に
なります。研究・開発の結果、図
2に示すような電動義手を製作す
ることができました。この電動義
手の特徴は、①指が屈曲すること
②装着者の手に模した表皮を有す
ること、③触覚機能を有すること
です。

実際に電動義手を製作してみ
ると、まだまだ十分なものではない
ことが分かりました。その一つが
物をうまく把持することができな
いことです。そこで、ヒト指腹部
の構造に関する研究を行いました。
ヒト指腹部にいろいろな形状およ
び荷重で物体を押し付けて、その
際の指腹部の変形をMRIにて撮
影しました。図3は指の横断面M
R画像です。物体形状に沿って指
腹部は変形し、特に指腹部内の
pulp（液状の物質）
が内部を移動してい
ることが分かりま
した。

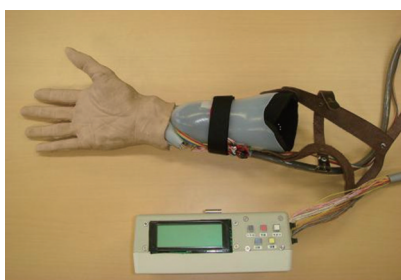


図2

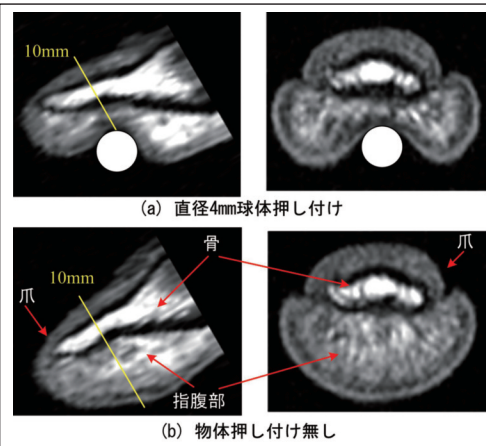


図3

の骨は靱帯で強固に連結されています。図4にある赤い線は筋を表現しています。屈曲の主動筋は6種類、伸展の主動筋は

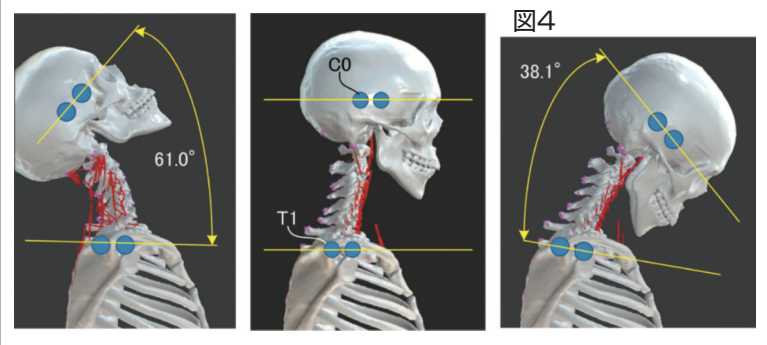


図4

③ 数値シミュレーション・ヒト運動を模擬する
主に、マルチボディシミュレーションの手法で、関節運動を解析しました。これらの中で頭頸部の屈曲・伸展運動について紹介します。
頭頸部の骨格は、頭骨と7つの頸椎から構成されています。図4に示すように頸椎はほぼ垂直に積み重なりあっている、隣接する頸椎間で数度(3~8 deg)の屈曲を有し、全体として40 deg程度屈曲することができます。伸展の場合、60 deg程度になります。図4に示す骨格はヒトのCT画像から三次元構築したものです。これらの

10種類あり、これらはほぼ左右対称に配置されています。今回のシミュレーションでは両動作と両側で210本の筋モデルが使用されています。あと、頸椎間に椎間板モデルとして5本のバネモデルを設置しました。図4に示すように伸展の筋のみを設置して、それらの筋を収縮すると頭部が斜め上方を向くように運動し、逆に屈曲の筋のみを設置すると頭部が斜め下方を向くように運動します。最大屈曲・伸展時の各頸椎間角度を算出し、ヒトデータと比較するとかなり良い一致がみられます。

以上のように、生体計測・福祉工学研究室で実施している研究の一部を紹介しました。本研究室は工学部機械システム工学科に所属していて、ロボットなどの機械工学を学びたいという学生さんにはちょうどいいと思うかもしれません。しかしながら、機械を操作するのは人であり、機械から多くの恩恵を受けているのも人です。ヒトを知ること、その周囲にある機械をより良いものにでき

私の学生時代

裾野を広げて幅を持って勉強する

嶋脇 聡 教授

東京農工大学では力学が得意だったので機械工学を選びました。私の父親が水産高校機関科の教師で、船のエンジンを担当する機関士の養成をしていましたので父の影響かな？

大学では流体力学だけは全くできませんでした。2年生から専門科目が始まり成績表を見ると流体力学だけが『可』、「こりゃーやばい、流体力学をもっと勉強しないと」と自分で勉強し始めました。すると、そこそこ面白いことが分かり、最終的に流体の研究室に入ったのです。「機械工学」の卒業になるので将来のためにも「機械の知識を身につけなければまずいかな」と、図書館に行って本を探しては自分でも勉強しましたね。

サークルは卓球部。当時は自転車が行って、



東京農工大学の4年生の時に友人と（後列左）

兵庫県の明石で卓球の試合があったので自転車を持って行き、帰りは東京まで4日かけて帰りました。夏でしたから熱くて日焼けがひどくて

火傷の薬を塗り、旅館や大学の寮などに泊まりながら帰りました。卓球部では仲間とあちこちへ遊びに行きましたね。卓球は今も続けてやっていますよ。

東京農工大で修士を終えて、その後、日立製作所に3年間勤務、流量を計測する装置を開発していました。バブルが終わり、会社は人材の整理などをしていたこともあり辞めて東京工業大学大学院に入りました。大学院では流体力学をメインに研究していました。機械の流れを解析する研究と人の身体の流れを計測する研究があって、最初は機械でしたが先生に勧められて生体の流れの研究を始めました。マスターのときは血管の中の流れでしたが、ドクターのときは鳥の呼吸の流れを研究しました。

今の学生は知りたい情報を探するのは比較的楽だと思います。しかし、最初からこれと決めずにその周辺の中で面白そうな興味のある学びをしていくといいですね。最初からピンポイントで決めている学生もいますが、裾野を広げて幅を持って勉強していると、意外に一步先の周辺でやっていることが将来役に立つ可能性があります。また、私の経験からですが、自分で学ぶほうが身につきますし、自分で見つけ出したことはその後必ず役に立ちますよ。

（「私の学生時代」取材・文／アートセンターサカモト・栃木文化社ビオス編集室）

剣道部



第67回関東甲信越大学体育大会で、剣道部は男子団体第3位、女子団体準優勝、女子個人優勝の成績でした。「年々強くなっています。強豪大学とそこそいい試合をするので、もう一段のレベルアップを図れば全国大会も見えてくる」と話すマネージャーの阿部ひろなさん（農学部3年）。猛稽古をする剣士たちはみな凛々しくカッコイイ！今回は、主将の浅香 諭さん（農学部3年）と、個人優勝を果たした森田奈々子さん（教育学部1年）に話を伺いました。

■剣道は生活の一部です

農学部応用生命化学科3年
浅香 諭 主将

兄2人が剣道をしていたのがきっかけで、幼稚園年長の6歳から始めました。小中高と部活は剣道部でした。中学生のときは稽古がきつくて、環境が変わったりしてプレッシャーもあり、辛い時期もありましたがやめることはなく続けてきました。高校のときに県大会でベスト4になれたことが一番嬉しかったですね。大学でも剣道を続けようと思ったきっかけは国体のメンバーになりたいくてなれなかったのが悔しかったからです。

大会の個人優勝は森田さんが努力した結果だと思うので本当にすごいと思います。今大会では男子団体3位、女子団体準優勝だったのですが、目標は優勝だったのであと2戦勝てなかったことは悔しい。それでも剣道部として好成績を収められたのは、みんなで支えながら出せた結果かなと思っています。私立大学と違って剣道中心に考えている学生は少ない状況ですが、その中でそれぞれが考えて工夫しながら勝ちを目指して日々稽古をしています。自主的な稽古が必要ですから、少ない時間で質の高い稽古ができればいいかなと思っています。

4年になると他の学生は就活などいろいろあるのですが、自分は4年の最後までやるつもりです。子どもの頃から続けている剣道は自分には生活の一部ですから。今後は大学院に行くか就職するかで迷っているのですが、最終的には実業団で剣道をできればと思っています。国体など全国レベルの上位の大会に挑戦できるので、諦めず挑戦し、今は4段ですが高段位の7段、8段をとれるように頑張りたいと思っています。剣道からは人間関係などのさまざまなことが学べました。剣道に対して感謝しています。



■子どもたちに剣道を伝えていきたい

教育学部
学校教育教員養成課程1年
森田奈々子さん

今回の優勝は一言で言うと「本当に嬉しい」ですね。今まで優勝したことがなかったので、大学でも剣道を続けていて良かったなと思いました。

私は小学4年生から剣道を始めました。小学校の同じクラスに剣道をしている友だちがいたので、誘われて見に行ったら「カッコいいな」と思ったので始めました。将来は中学校の体育の先生か小学校の先生になりたいと思いますので、子どもたちに剣道を伝えていくのが夢です。

剣道をやめたいと思ったことは今までに何回もありました。稽古がきつかったり自分のせいと団体戦の試合が負けちゃった時とかですね。今では、剣道は子どもたちに伝えること以外にも、教育の現場での上下関係や同僚とのコミュニケーションなどにも役に立つかなと思っています。

中学、高校、そして今も部活が中心の生活ですが、そこで部活の仲間と絆ができてチームが築かれるので、人間関係の形成が学べると思っています。

これからもプレッシャーに負けずに全国大会に出て上を目指したいと思っています。

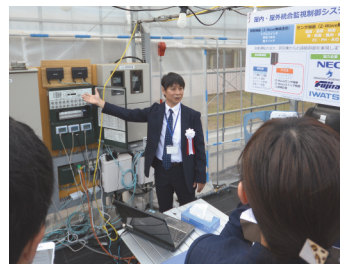


「ロボティクス・工農技術研究所 (REAL)」 開所式典を挙行政

ロボティクス・工農技術研究所 (REAL=Robotics, Engineering and Agriculture-technology Labo.) は、宇都宮大学発のロボット技術や次世代植物生産技術を核として工農融合の地域イノベーションを創出し、新たな産業を栃木県で興すことを目的として、2018年4月に整備されました。これを記念して、7月26日(木)にロボティクス・工農技術研究所開所式典を挙行政しました。

研究所長の尾崎功一工学研究科教授は、式典での挨拶で、「REALは単なる研究施設ではなくて、本当の狙いはオープンイノベーションを作ることです。学生がベンチャーを起こすようなことになれば立ち上げた意味がある」と話しました。

大学のコアとなる研究成果を社会実装につなげる課題として5つのプロジェクトを設定し、ロボティクス、農学、工学が融合したユニークなコアとなる知見、技術である『イチゴの超高鮮度維持技術』『人間の色覚と同じ情報量で処理できる画像処理法』『磁気ナビゲーション』『顕微鏡のロボット化』の4つのコアを文科省に提案。「それが採択につながりました。各プロジェクトを実践していくためにいろいろと仕掛けを込めて作りました」と尾崎教授。式典後、参加者は研究所を見学、学生たちがそれぞれの研究内容を説明しました。



団体入賞および個人入賞者

【団体】

- ・バレーボール 女子 優勝 男子 第3位
- ・硬式テニス 女子 準優勝 男子 第3位
- ・ソフトテニス 女子 準優勝
- ・剣道 女子 準優勝 男子 第3位
- ・弓道 女子 第3位
- ・硬式野球 第3位
- ・バトミントン 女子 第3位
- ・準硬式野球 第3位
- ・器械体操 女子 第3位

【個人】

- ・陸上競技
 - 女子800m 第2位 教育学部4年 柳 好恵
 - 男子5000m 第3位 農学部1年 柿沼 祐亮
 - 男子3000mSC 第3位 農学部1年 柿沼 祐亮
 - 男子走高飛 第2位 教育学部3年 鈴木 敦也
 - 女子走幅跳 第3位 教育学部1年 石上 莉絵
 - 女子やり投 第3位 教育学部1年 佐久間 史穂
 - 女子砲丸投 第3位 教育学部1年 佐久間 史穂
- ・剣道 優勝 教育学部1年 森田 奈々子
- ・ソフトテニス
 - 男子3位 ペア：農学部4年 保澤 優輝
教育学部4年 飯村 文人
 - 女子3位 ペア：地域デザイン科学部2年 吉田 絢
教育学部1年 湯澤 彩香

第67回関東甲信越大学体育大会が 開催されました

2018年8月15日(水)～9月2日(日)の19日間にわたり、第67回関東甲信越大学体育大会が長岡技科大(主管)、信州大及び新潟大を当番大学として各会場で開催され、関東甲信越地区にある13の国公立大学(茨城大、筑波大、長岡技科大、群馬大、埼玉大、千葉大、横浜国大、横浜市大、都留文科大、山梨大、信州大、新潟大、宇都宮大)の学生が17の競技に参加し、熱戦が繰り広げられました。

本体育大会に宇都宮大学から285名の学生が15競技に参加し、左記の団体及び個人が上位入賞しました。



優勝した女子バレーボールチーム

宇大サポーターになってください！

宇都宮大学3C基金

皆様からいただいたご寄附は大切にに使わせていただきます。

平成20年に宇都宮大学基金が創設されてからこれまで、同窓生や地域の皆様、地元企業の皆様など多くの方からご寄附をいただきました。宇都宮大学3C基金は旧基金を拡大し、2019年秋（創立70周年）までに、さらに3億円の寄附を目標にしております。

宇都宮大学3C基金からのお知らせ

このたび、大学内の歴史的建造物を中心に、6つの施設（峰ヶ丘講堂、石蔵（旧図書館書庫）、フランス式庭園、イギリス式庭園、日本式庭園、UUプラザ（旧学生食堂））を、宇都宮大学ヒストリカルゾーンとして整備することとなりました。石蔵の改修を中心に、2019年11月23日の大学創立70周年記念式典に起工式を開催し、完成は宇都宮高等農林創立100周年にあたる2022年を予定しています。サイエンスカフェやミニライブラリーにリノベーションし、もっと多くの方々の身近な存在となり、もっと愛される大学づくりを目指します。どうかご寄附にご協力ください。

3C基金では、個人・法人、両方から冠奨学金を募集しております。ご自分のお名前や法人名を奨学金名にして、未来を担う宇大生をサポートしませんか？詳細は事務局にお問合せください。

宇都宮大学3C基金事務局

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

TEL : 028-649-8177 E-mail : kikin@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



ホームページでも簡単にお手続きいただけます。

http://www.utsunomiya-u.ac.jp/fund/3c_kikin.php

宇都宮大学3C基金

検索

宇大のラジオやってます。

『宇～太が語る！？宇大のヒミツ』

第1・第3水曜日 昼12:00～12:55

宇都宮コミュニティFM「ミヤラジ」77.3Mhzにて 絶賛放送中！



スマホからも聴けるよ！！



Android用



iPhone用

アプリをダウンロードしてね。

第70回峰ヶ丘祭（峰ヶ丘祭実行委員会主催）

第70回テーマ「峰ヶ丘七重奏」

日時：11月23日（金）～24日（土）

10時～18時（24日は19時まで）

会場：宇都宮大学峰キャンパス

問い合わせ先：宇都宮大学峰ヶ丘祭実行委員会

TEL : 028-634-5877

第70回峰ヶ丘祭オープニングパレード

日時：11月17日（土）12:00～（予定）

※宇都宮大学から宇都宮市内をパレードし、大学祭のPRを行います。

問い合わせ先：宇都宮大学峰ヶ丘祭実行委員会

TEL : 028-634-5877

国立大学法人
宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

「ラーニング・コモンズ」前テラス

峰キャンパス

国際学部／教育学部／農学部

〒321-8505

栃木県宇都宮市峰町350

（代表）028-649-8172

11号館（コミュニティデザイン学科棟／手前）
および10号館（先端工学専攻棟／奥）

陽東キャンパス

地域デザイン科学部／工学部

〒321-8585

栃木県宇都宮市陽東7-1-2

地域デザイン科学部

（代表）028-689-6233

工学部（代表）028-689-6005

■ 企画広報課では、皆様の声をお待ちしております。
ご意見・ご要望などをお寄せください。

■ 企画・編集

宇都宮大学 UUnow 第47号編集委員

■ 編集委員

若園雄志郎	地域デザイン科学部准教授
鎌田美千子	国際学部准教授
小原 一馬	教育学部准教授
森 大毅	工学研究科准教授
青山 真人	農学部准教授
阿部 好子	企画広報課職員
渡邊 文彦	企画広報課職員
福山 晴佳	企画広報課職員

■ 取材アシスタント（OB.OG.インタビュー）

大川 裕	国際学部4年
上遠野亜衣	国際学部4年
小畑 晋吾	国際学部4年

■ 発行責任者

藤井佐知子 理事（企画・広報担当）

■ 編集協力

アートセンターサカモト・
栃木文化社ビオス編集室Utsunomiya
University
Official Twitter

@uukouhou
<https://twitter.com/uukouhou>

Utsunomiya
University
Official Facebook

<https://www.facebook.com/udai.kouhou/>

【宛先】宇都宮大学 企画広報課

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

TEL : 028-649-8649/FAX : 028-649-5026

E-mail : plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp